

高齢者女性の服装観と着装実態

文教大教育 ○伊地知美知子、 田中千代学園短大 小田巻淑子
 共立女大家政 小林茂雄

<目的>我が国では人口の高齢化が急速に進んでいるが、この高齢者層が服装についてどのような考えを持ち、どのような着装実態であるかをとらえることは、今後の高齢者の服装のあり方を考える場合に重要である。本研究では60歳以上の女性を対象に、アンケート調査を通して服装観と着装実態について考察した。

<方法>調査対象者は関東在住の女性200名であり、年齢の内訳は60歳代75名、70歳代88名、80歳以上37名である。これらの被験者に質問紙面接法または配票留置法などにより1994年8月～10月にアンケート調査を実施した。調査内容は、ふだん家で着ている衣服、服装などに対する考えやおしゃれ意識などである。調査結果は単純集計、クロス集計による解析、および数量化3類による解析をもとに考察した。

<結果>ふだん着ている衣服のタイプで多いものは、上衣では上位から順にブラウス、セーター類、Tシャツ、下衣では上位から順にズボン、スカートであった。ふだん着ている衣服としてあげられた多い項目は、上位から順に動きやすい、洗濯しやすい、着脱しやすい、着ごこちのよい、自分で購入、自分に似合っているであった。服装観やおしゃれ意識については(はい、どちらでもない、いいえの3段階尺度)、きれいな身なりでの外出が好き、身だしなみはいつもきちんとしている。おしゃれに関心がある、外出する時には必ず化粧をする、実際の年齢よりも若く見られたい、買物(衣類や装飾品)が好き、明るい色・柄の服装が好きなどは肯定的回答の割合が50%をこえ、おしゃれ行為や意識に対して積極的な考えを持っている高齢者女性が多いといえる。